

# 全国の博物館の状況

## 1 博物館総合調査による建物規模等の状況

「博物館総合調査」は、国立教育政策研究所が、全国の4,045館を対象に、平成25年12月1日を調査基準日に実施したもの。「博物館総合調査」には、2,258館から回答があった。

(内訳は、国立館57館、公立館1,727館、私立館474館。館種別の館数は、総合109館、郷土285館、美術473館、歴史1,048館、自然史92館、理工103館、動物園43館、水族館53館、植物園40館、動水植物園12館。)

### ▼「博物館総合調査」(平成25年度)の基本データ集:館の特質について(調査票1. 関連)

表1 博物館の開館時期—館数— (設置者別)

設置者	N	博物館の開館時期(年度)									
		(明治期)1912—1912	(大正期)1912—1925	1926—1945	1950—1959	1960—1969	1970—1979	1980—1989	1990—1999	2000—2009	2010—
国立	57	1	1	1	1	2	2	4	2		
公立	1,727	3	3	23	65	97	229	489	586	212	19
私立	474	3	10	20	31	54	82	108	101	55	10
全体	2,258	7	14	44	101	156	319	603	794	287	29

### ▼「博物館総合調査」(平成25年度)の基本データ集:資料と調査研究について(調査票9. 関連)

表2 収蔵資料(人文系資料)の状況 (設置者別)

設置者	N	人文系資料									
		資料(点数)					資料(冊数)				
		資料合計数	中央値	平均値	最小値	最大値	資料合計数	中央値	平均値	最小値	最大値
国立	7	131,953	10,359	15,850	0	54,148	2	0	0	0	0
公立	1,727	25,498,818	2,000	19,880	0	1,163,626	589	1,991,376	0	3,381	0
私立	474	2,329,469	1,897.5	27,199	0	1,914,692	59	157,349	2	2,697	0
全体	2,258	28,260,230	2,000	23,180	0	2,822,241	648	2,151,001	2	3,381	0

(注)中央値は、小冊子1冊のものは小冊子1冊で、平均値は四捨五入した数値で表記している(以下同様)。

▼「博物館総合調査」(平成 25 年度)の基本データ集:敷地・建物及び設備について(調査票 4. 関連)

表2 敷地総面積と建物延床面積 (設置者別)

		敷地総面積			建物延床面積		
		N	中央値(m <sup>2</sup> )	平均値(m <sup>2</sup> )	N	中央値(m <sup>2</sup> )	平均値(m <sup>2</sup> )
国立	国	9	10,672	30,270	11	5,446	8,093
	独立行政法人	16	41,590	162,515	19	4,404	17,181
	国立大学法人・大学共同利用機関法人	17	1,802	54,908	24	1,192	5,624
	小計	42	11,143	90,621	54	2,822	10,193
公立	都道府県	229	19,153	69,557	230	5,472	7,575
	市(区)	1,078	4,380	21,100	1,121	1,305	2,421
	東京23区	33	2,080	4,358	33	2,086	2,621
	指定都市	116	8,888	52,277	116	3,137	6,384
	市(人口50万人以上)	25	6,843	40,142	25	3,123	4,653
	市(人口30万人以上)	118	3,827	21,207	120	1,842	2,988
	市(人口20万人以上)	93	5,789	23,969	96	1,443	2,411
	市(人口10万人以上)	230	4,462	15,221	233	1,273	1,973
	市(人口5万人以上)	266	4,101	18,884	283	978	1,470
	市(人口3万人以上)	148	3,077	11,865	165	886	1,382
	市(人口3万人未満)	49	4,220	10,656	50	1,002	1,538
	町	230	3,063	12,288	245	796	1,136
	村	31	3,100	9,950	33	804	1,140
	組合	4	10,536	9,505	4	6,682	6,250
	その他	4	4,369	6,538	4	3,912	5,741
小計	1,576	4,975	26,569	1,637	1,363	2,944	
私立	公益財団法人・公益社団法人	145	3,151	14,967	149	1,237	2,506
	一般財団法人・一般社団法人	45	3,100	9,735	48	875	2,771
	その他の非営利法人	89	3,474	41,806	106	842	1,754
	民間企業	92	6,902	58,639	102	1,606	4,642
	個人	16	1,000	1,663	17	264	375
	その他	4	30,120	88,235	5	4,756	7,959
小計	391	3,544	30,955	427	1,099	2,838	
全体	2,009	4,854	28,762	2,118	1,334	3,108	

表3 敷地総面積と建物延床面積 (館種別)

		敷地総面積			建物延床面積		
		N	中央値(m <sup>2</sup> )	平均値(m <sup>2</sup> )	N	中央値(m <sup>2</sup> )	平均値(m <sup>2</sup> )
館種	総合	100	6,350	24,289	107	3,453	4,713
	郷土	248	2,978	12,675	268	879	1,290
	美術	429	4,942	18,389	446	1,619	3,962
	歴史	924	3,911	19,894	984	1,033	2,116
	自然史	80	9,425	61,772	85	1,769	3,978
	理工	96	7,248	24,519	102	3,517	5,351
	動物園	41	130,000	205,036	36	7,596	12,499
	水族館	43	18,205	44,845	45	5,802	8,296
	植物園	36	102,500	176,846	36	2,056	3,217
	動水植物園	12	108,603	161,834	9	5,948	6,620
	全体	2,009	4,854	28,762	2,118	1,334	3,108

(1) 全国の博物館の状況からみる本市博物館の特徴

ア 松本市立博物館は、1906年(明治39)開館で、公立博物館として、非常に古い歴史をもつ。

イ 人口20万人以上「市」の人文系資料の平均は、25,850点であるが、本市の収蔵資料は、平成26年度末で人文系資料のみでも、95,500点(総記・考古・歴史・民俗・美術)、その他自然系資料を20,389点、総計115,889点(教育要覧参照)の膨大な収蔵資料を有し、人口20万人以上「市」平均の約4倍規模を誇る。

ウ 人口20万人以上「市」の博物館建物延床面積の平均値は、2,411m<sup>2</sup>であるが、館種別では、総合博物館の平均値は、4,713m<sup>2</sup>である。

本館は開館時期が他と比較し際立って古く、収蔵資料数も膨大なため、以上の平均値にあてはめるには無理がある。

## 2 本市調査による建物規模の状況

### ■調査の概要

本市と人口規模が同程度以上の、いわゆる施行時特例市 39 市及び中核市 45 市、計 84 市の内、市立博物館施設を有し、ウェブサイトでアドレスを公開している 53 館に調査表発送。平成 27 年 8 月 31 日締切で、32 館より回答を得、集約。回答率 60%。

### ■回答市 32 市(館) ※内訳

中核市	23 市	郡山市・松山市・高崎市・前橋市・那覇市・長崎市・福山市・郡山市・川越市・豊田市・横須賀市・高槻市・盛岡市・岐阜市・和歌山市・高松市・豊橋市・倉敷市・松山市・秋田市・前橋市・長野市・富山市
特例市	9 市	厚木市・吹田市・鳥取市・八戸市・山形市・沼津市・四日市市・松江市・松本市

### ■調査の目的

本市と概ね人口が同程度の地方自治体における博物館施設の建物規模を調査するとともに、本市基幹博物館との類似性を分類指標として傾向を分析した。具体的には、指標①館種分類による「総合」系(6館)、指標②開館年 2000 年以降の比較的开館年が新しい館(6館)、指標③収蔵品点数 100,000 点以上の館(5館)、指標④中心市街地に立地(ターミナル駅から徒歩 15 分圏内に立地と定義)する館(18館)の 4 指標にてそれぞれ抽出し、館の敷地面積、建物延床面積、常設展示室延床面積、特別展示室延床面積、収蔵庫延床面積との関連性を分析した。

### ■設問(回答は別紙のとおり)

問	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
データ	種類 (館種)	開館年	現施設 築年	敷地 総面積	延床面積	常設 展示室 延床面積	特別 展示室 延床面積	収蔵庫 延床面積	収蔵庫 現状	収蔵 資料数
参考							・適正規模 ・活用実態 自由回答	・収蔵資料数増加対策自由回答		
本市	総合	1906 年	1968 年	5,905 m <sup>2</sup>	3,593 m <sup>2</sup>	847 m <sup>2</sup>	553 m <sup>2</sup>	522 m <sup>2</sup>		115,889 点
平均				4,550 m <sup>2</sup>	3,730 m <sup>2</sup>	816 m <sup>2</sup>	265 m <sup>2</sup>	412 m <sup>2</sup>		

### ■平均値による博物館の建物規模

	規模	根拠	備考
敷地面積	4,700 m <sup>2</sup> ~6,200 m <sup>2</sup>	~指標②	
建物延床面積	3,700 m <sup>2</sup> ~5,700 m <sup>2</sup>	~指標①	
常設展示室延床面積	800 m <sup>2</sup> ~1,200 m <sup>2</sup>	~指標③	
特別展示室延床面積	300 m <sup>2</sup> ~400 m <sup>2</sup>	~指標②	※特別展開催期間以外の使用目的検討要。
収蔵庫延床面積	400 m <sup>2</sup> ~500 m <sup>2</sup>	~指標②	※資料は厳選し、一定規模に収めることが必要。

### ■まとめ

調査結果からは、現状は、常設展示室を広く確保することで、収蔵資料を多く公開し、また、収蔵庫も一定面積確保、受入れ資料の厳選など対応しているものの、近年収蔵庫が不足がちとなり、対応に苦慮している姿が見受けられる。特別展示室は理想はあるものの、十分な広さは確保されていないか、今

ある広さでの活用法を探っている状況に思われる。